



光合成 権 従属栄 権 存戦
戸大 学大学 学 学専攻
多 性 座
末 健司 准教授

上のくはと共しており、のと光を互いにやりりする共の係をさせている。しかしながら、の中には、光をやめ、をして争をがせるというなをげたがする。をづけるなが光にあることをえると、こうしたのをらかにすることは、においてもなといえる。しかしながらは、以は上にをさないため、争すららかにないがく、そのにはが伴った。このようなをするため、はなフィールドワークや争なをくい、のになをいてきた。その、は、とのわりのみならず、共や共といった一係ないようにえる上でのとの共係までもにさせていることをらかにしてきた。こうしたのでこったの例をいくつか介するとともに、それらをにしたメカニズムをにけたなについてしたい。

参文

Suetsugu K (2018) Achlorophyllous orchid can utilize fungi not only for nutritional demands but also pollinator attraction. **Ecology** 99: 1498-1500.
Suetsugu K (2018) Independent recruitment of a novel seed dispersal system by camel crickets in achlorophyllous plants. **New Phytologist** 217: 826-835.
Suetsugu K, Yamato M, Miura C, Yamaguchi K, Takahashi K, Ida Y, Shigenobu S, Kaminaka H (2017) Comparison of green and albino individuals of the partially mycoheterotrophic orchid on molecular identities of mycorrhizal fungi, nutritional modes, and gene expression in mycorrhizal roots. **Molecular Ecology** 26: 1652-1669.
Suetsugu K, Kawakita A, Kato M (2015) Avian seed dispersal in a mycoheterotrophic orchid. **Nature Plants** 1: 15052.